

子育のよき鳥は調法す、年々能子出来るもの也、文鳥は春子出来たる鳥にても、二番巢にいたり、色々癖出て巢も捨、又は子かへりても捨る、夫ゆへ又巢くせあしき鳥も、又其時によりすらくとよく子育上るも有、捨られぬ物なり、能かゝる男鳥は秘藏すべし、すくなし、十姉妹たんどくは、随分巢癖なく能出来る物なり、此類巢捨たり、又子を捨たるは、とかく何か障りあるもの也、おどろくやうの事有と知るべし、ハ、鳥相思鳥、巢にかゝりては、度々見る事悪し、氣荒さ物にて、直に巢を捨たがる物也、玉子二ツ程産たらば雄を上てよし、朝鮮目白も玉子二ツ三ツ産て、男鳥をあぐべし、常に庭籠の内にて餌を置所を、此類の所は鳥籠の口廣く作りて、其内にて餌を喰せならはせて置事よし、上る時にむぞうさに取れるなり、

〔飼鳥必用〕下かつかう鳥 一名大虫喰と云

此鳥春より五月頃迄、江戸在にて産巢して啼なり、勿論子も親も其節出るもの也、籠の内にては、野にて鳴やうには啼ざる鳥也、よつて人々あまり賞翫せざる鳥也、尤頬白の巢へ玉子落し、頬白に生立さするなり、○下

〔甲子夜話 三十〕東行記ニ、備前國カ、戸ト云ヲ行ケバ長堤アリ、高シテ右左芝生ヒ、其上ヲ往來ス、右ハ吉井川ナリ、川幅廣ク底モ深シ、ソノ左見ワタシノ丘ニ神祠アリ、四面松生テ皆喬木ナリ、其木末ニ鷓鴣鷺群棲シテ鳴聲至テ噪シ、路祠相去ルコト數町餘ニシテ、其聲ヨク聞ユ、又二禽俱ニ巢ヲ成シ、子ヲ育スルサマ殊ニ奇ラシ、鷺鴣黑白ノ混棲可咲、サレド共ニ水禽ナレバ、漢土ノ鳥鼠同穴ヨリハ、類ヲ同ストモ云ベキナリ、此鳥糞條幹ニ被リテ、白色景雪ニ似タリ、サシモノ大木皆コレガ爲ニ枝葉剝落シ、枯木ノ如シ、又コノ神祠ハ長船明神ト云テ、鍛冶ノ神ナリト傳、

〔甲子夜話 四十八〕林話ス、時鳥ハ自ラ巢ヲ結ブコトナク、鶯ノ巢ニ卵ヲ産デ鶯ニ温サセテ雛トナルコトハ、人ノ能知ル所ナリ、此頃聞ニ、鶯モ其如ク我巢ハナク、鶉ノ巢ニ卵ヲナシテ、鶉ニカヘサ